

あすなろ

「明日はヒノキになろう！」

努力は無限！

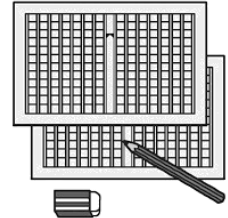
「授業を大切にしよう!!!」

◆◇◆朝読時の書き取り学習、はじまります！◆◇◆

明日4/27(金)朝読の時間は本を読みません。

「書き取り学習」を行います(今年度も図書委員とコラボします)。

5分間集中して、お手本の文章をていねいに書き写します。



お手本の文章を正しくていねいに書き写していく学習を「視写」ともいいます。

仏教ではお坊さんが経典(お経)を書き写す作業を「写経」といって、仏教の教を学ぶための修行の1つになっています。また、江戸時代の寺子屋で教えられた「読み・書き・そろばん」の「書き」は「視写」の形ですめられていました。このように、日本では古くから「視写」が行われてきました。近頃、「視写」の学習効果が再評価されています。文部科学省は、この「視写」の取り組みに次の5つの効果があるとしています。

【5つの効果】

1. 集中力をつける。
2. 字が上手になる。
3. 文章表現の技法を覚える。
4. 表記のルールを覚える。
5. 暗唱(あんしょう)や記憶に役立つ。



「書き取り学習」で意識して欲しいことが2つあります。

1つ目は、「ていねい」に書くこと。

字を「上手」に書けるようになるには、たくさんの練習が必要ですしセンスも問われるので、すぐにどうかなるものではありません。しかし、字を「ていねい」に書くのは、意識の問題なので、今すぐにでもできます。字をていねいに書くことを習慣づけられたら、授業に集中して臨むことができるし、ノートや授業プリントを使つての復習がしやすくなります。また、書き間違いや読み間違いが減り、計算間違いも減らすことができます。テストの採点でも、読めない字だからといって×にされることもなくなります。

2つ目は、「速く」書くこと。

書く作業が速くなればその分、授業やテストに余裕を持って取り組むことができるようになります。ただし、「速く」を意識しすぎて「ていねい」の意識がうすれると、間違いのもとになります。「ていねい」と「速く」のバランスが大切です。5分間で175字以上を「ていねい」に書くことを目安にして取り組んでみよう。

★書き取り学習の進め方

- ①「お手本」と「書き取り用紙」(裏面は「ふりかえり」)が配られる。
- ②先生の合図で書き取りを始める。書き取り時間は5分間。「ていねい」に、そして「速く」を心がけて取り組む。
- ③先生の合図で、書き取りを終わる。「書き取り用紙」の裏面の「ふりかえり」で取り組みの振り返りをする。
- ④「書き取り用紙」は提出し、「お手本」は学活ファイルにする。
- ⑤「書き取り用紙」が返却されたら、学活ファイルにする。